

Topics 福島は、原子力機構が行っている福島対応などの活動を紹介するものです。

福島県矢吹町議会大震災及び原発事故調査特別委員会など 20 人が

仮置場を視察

福島県矢吹町の町議会議員など 20 人が 12 月 5 日、川俣町山木屋地区にある除染モデル実証事業で設置した仮置場を視察しました。この視察会は仮置場の確保に取り組んでいる市町村の依頼を受けた福島県が、仮置場への理解を深め、不安を払拭し、仮置場設置の促進を図る目的で実施したもので、今回で 5 回目となります。原子力機構からは除染推進専門家チームのメンバーを中心に 5 名が対応し、仮置場の構造や安全性についての技術的な説明を行いました。

当日の視察会では、まず環境省職員が参加者に仮置場について説明した後、原子力機構職員の指導により（=写真上）、NaI シンチレーションサーベイメータを使って仮置場周辺の空間線量率を測定しました（=写真下）。結果、除去物の周りに置かれた汚染のないフレキシブルコンテナバック入り土壌で十分な遮蔽効果があることを確認しました。また、仮置場の構造についても、ガイドラインに準じた安全性を担保する設備（集水枡、周辺の水路など）の設置状況等を確認しました。

視察会を終えた後に参加者からは、「仮置場設置の住民同意を得ることは難しいが、今回の視察で安全性についての理解が深まった。今日見たことを地元伝えて、仮置場設置へ理解が得られるよう説明していきたい」との声が聞かれました。

